

行政調査報告書「低炭素社会推進特別委員会」

平成 27 年 10 月 21 日（木）～23 日（金）

■北九州次世代エネルギーパーク（福岡県北九州市）「北九州次世代エネルギーパークについて」

北九州・次世代エネルギーパークでは、暮らしを支えるエネルギーの供給基地、太陽光・風力等の自然エネルギーほか、革新技术の研究などの取組みを視察した。平成 21 年に経済産業省から全国で第 1 号の認定を受けた多種多様なエネルギー関連施設・工場的一大集積地であり、この若松区響灘地区は 90 年前から埋め立てを行い、20 年間、8,000 億円をかけて整備された。主な施設は、石炭・石油・天然ガスの供給基地、太陽光発電、風力（陸上・洋上）発電などである。



北九州・次世代エネルギーパークは、地域で作った再生可能エネルギーを中心に賢く使用し、資源・廃棄物が最適な物質循環のもとに安全にマネジメントされ、低炭素社会を目指している。本市においても、自然エネルギーを活用した工業団地の造成や市民太陽光発電所の建設などの研究ができると感じた。

■福岡県みやま市「みやまHEMSプロジェクトについて」



福岡県みやま市は、平成 28 年 4 月からの電力小売の全面自由化を見据え、平成 27 年 3 月に新電力会社「みやまスマートエネルギー(株)」を設立した。エネルギー事業（電力販売）と市民サービスを高度な ICT 基盤でつなげ、暮らしやすく魅力に満ちたまちづくりを推進する取組みである。

電力事業は赤字事業が多いが、電気の小売り自由化を迎えるにあたっては、本市も発電した電力を有効的に使う方法を考えなければならないと感じた。また、エネルギー政策においても地域の特性と地域資源の活用を踏まえ、当該事業の可能性と自治体の役割について研究が必要であると考えた。

■九州大学水素エネルギー国際研究センター（福岡県福岡市）「福岡水素戦略について」

九州大学水素エネルギー国際研究センターでは環境にやさしい水素と酸素の化学反応により効率的に電気をつくる次世代エネルギー社会の実現を目指し、全国に先駆けて産学官のプロジェクト「福岡水素エネルギー戦略会議」を立ち上げ、数々の実証を行っている。



産学民連携組織により推進するプロジェクトを視察し、環境に良く、熱効率が高い水素を利用した水素エネルギーの可能性が良く分かった。本市に水素ガスステーションが設置される予定であるため、水素の利用が広がり、特に家庭燃料電池「エネファーム」の普及も期待したいと感じた。